

(様式第 10)

神大医患第
平成 29 年

厚生労働大臣

殿

管理者名 神戸大学医学部附属病院長
藤澤 正人

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1 - 1
氏 名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

神戸大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7 丁目 5 - 2	電話 (078) 382-5111
----------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科	②消化器内科
⑤神経内科	③循環器内科
⑨感染症内科	④腎臓内科
	7内分泌内科
	8代謝内科
	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	11リウマチ科
診療実績	
内科、糖尿病内分泌内科、腫瘍・血液内科	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	有	無	
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 5血管外科	2消化器外科 ⑥心臓血管外科	3乳腺外科 7内分泌外科	4心臓外科 ⑧小児外科
診療実績 食道・胃腸外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
⑦産婦人科	8産科	9婦人科	⑩眼科	11耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科					
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科・②矯正歯科 3口腔外科		
歯科の診療体制 歯科口腔外科		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 放射線腫瘍科	2 病理診断科	3 リハビリテーション科	4 美容外科	5 形成外科
6 耳鼻いんこう頭頸部外科				

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46床	0床	0床	0床	888床	934床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	537人	225人	693.6人	看護補助者	53人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	17人	35人	31.5人	理学療法士	20人	臨床検査技師	75人
薬 剤 師	77人	0人	77人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	12人	その他	0人
助 産 師	30人	0人	0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	860人	26人	876.8人	臨床工学士	36人	医療社会事業従事者	10人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	46人
歯科衛生士	5人	0人	5人	歯科技工士	2人	事務職員	258人
管理栄養士	13人	0人	13人	診療放射線技師	51人	その他の職員	30人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	71人	眼科専門医	11人
外科専門医	64人	耳鼻咽喉科専門医	16人
精神科専門医	13人	放射線科専門医	25人
小児科専門医	29人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	9人	整形外科専門医	31人
泌尿器科専門医	20人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	18人	救急科専門医	6人
		合 計	347人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 藤澤 正人) 任命年月日 平成26年2月1日

医療の質・安全管理部長 (平成25年10月1日) (~平成26年1月31日)
医療安全管理委員会委員長 (平成26年2月1日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	792.6人	15.4人	808.1人
1日当たり平均外来患者数	1,333.5人	67.3人	1,401.9人
1日当たり平均調剤数	1465.7 剤		
必要医師数	166人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	27人		
必要(准)看護師数	452人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	653m ²	鉄筋コンクリート	病床数	36床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	55m ²	病床数	5床(クラス100)	
	[移動式の場合]	床面積	643.39m ²	病床数	63床(クラス100以外)	
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	51.24m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	58m ²		(主な設備) 自動臨床化学分析装置			
細菌検査室	73m ²		(主な設備) 微生物分類同定分析装置 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置			
病理検査室	247m ²		(主な設備) クロスアット, ウltraクローム, 染色装置			
病理解剖室	67m ²		(主な設備) 解剖台, オートクレーブ, 写真撮影機			
研究室	430m ²		(主な設備)			
講義室	1,193m ²		室数	6室	収容定員	952人 (各室252, 120, 120, 315, 100, 45)
図書室	2,145m ²		室数	1室	蔵書数	約15万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	81.3%	逆紹介率	54.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数		19,138人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,571人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,280人
	D: 初診の患者の数		25,113人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小縣 正明	神戸市立医療センター西市民病院 副院長/救急総合診療部長/医療の質・安全管理部長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・ 無	1
丸山 英二	慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科 特任教授(非常勤)		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・ 無	1
武田 高	関西住宅品質保証株式会社 監査役(非常勤)		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ 無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中樞神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	3人
ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	0人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェテル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	4人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺癌(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)	3人
自己心膜及び弁形成リングを用いた僧帽弁置換術 僧帽弁閉鎖不全症(感染性心内膜炎により僧帽弁両尖が破壊されているもの又は僧帽弁形成術を実施した日から起算して六ヶ月以上経過した患者(再手術の適応が認められる患者に限る。))に係るものに限る。	0人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 da Vinci サージカルシステムを用いたロボット支援腹腔鏡下部分切除術の有用性を検討するため、画像診断によりcT1,cN0,cM0 ステージの腎がんと判定された患者を対象に腎部分切除術を行う。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数
0	56	球脊髄性筋萎縮症	ベーチェット病
9	57	筋萎縮性側索硬化症	特発性拡張型心筋症
2	58	脊髄性筋萎縮症	肥大型心筋症
1	59	原発性側索硬化症	拘束型心筋症
2	60	進行性核上性麻痺	再生不良性貧血
24	61	パーキンソン病	自己免疫性溶血性貧血
1	62	大脳皮質基底核変性症	発作性夜間ヘモグロビン尿症
0	63	ハンチントン病	特発性血小板減少性紫斑病
0	64	神経有棘赤血球症	血栓性血小板減少性紫斑病
0	65	シャルコー・マリー・トゥース病	原発性免疫不全症候群
11	66	重症筋無力症	IgA腎症
0	67	先天性筋無力症候群	多発性嚢胞腎
17	68	多発性硬化症/視神経脊髄炎	黄色靱帯骨化症
6	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	後縦靱帯骨化症
0	70	封入体筋炎	広範脊柱管狭窄症
0	71	クドウ・深瀬症候群	特発性大腿骨頭壊死症
8	72	多系統萎縮症	下垂体性ADH分泌異常症
14	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	下垂体性TSH分泌亢進症
2	74	ライソゾーム病	下垂体性PRL分泌亢進症
0	75	副腎白質ジストロフィー	クッシング病
1	76	ミトコンドリア病	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症
2	77	もやもや病	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症
1	78	プリオン病	下垂体前葉機能低下症
0	79	亜急性硬化性全脳炎	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)
0	80	進行性多巣性白質脳症	甲状腺ホルモン不応症
0	81	HTLV-1関連脊髄症	先天性副腎皮質酵素欠損症
0	82	特発性基底核石灰化症	先天性副腎低形成症
5	83	全身性アミロイドーシス	アジソン病
0	84	ウルリッヒ病	サルコイドーシス
0	85	遠位型ミオパチー	特発性間質性肺炎
0	86	ペスレムミオパチー	肺動脈性肺高血圧症
0	87	自己食空腔性ミオパチー	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症
0	88	シュワルツ・ヤンペル症候群	慢性血栓性肺高血圧症
6	89	神経線維腫症	リンパ管筋腫症
8	90	天疱瘡	網膜色素変性症
0	91	表皮水疱症	バッド・キアリ症候群
0	92	膿疱性乾癬(汎発型)	特発性門脈圧亢進症
3	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群	原発性胆汁性肝硬変
0	94	中毒性表皮壊死症	原発性硬化性胆管炎
1	95	高安動脈炎	自己免疫性肝炎
0	96	巨細胞性動脈炎	クローン病
2	97	結節性多発動脈炎	潰瘍性大腸炎
11	98	顕微鏡的多発血管炎	好酸球性消化管疾患
10	99	多発血管炎性肉芽腫症	慢性特発性偽性腸閉塞症
3	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症
3	101	悪性関節リウマチ	腸管神経節細胞減少症
3	102	バージャー病	ルビンシュタイン・テイビ症候群
1	103	原発性抗リン脂質抗体症候群	CFC症候群
41	104	全身性エリテマトーデス	コステロ症候群
19	105	皮膚筋炎/多発性筋炎	チャージ症候群
8	106	全身性強皮症	クリオピリン関連周期熱症候群
4	107	混合性結合組織病	全身型若年性特発性関節炎
16	108	シェーグレン症候群	TNF受容体関連周期性症候群
2	109	成人スチル病	非典型溶血性尿毒症症候群
1	110	再発性多発軟骨炎	ブラウ症候群

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	4
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマツセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	3	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	8	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	0
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	2	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・感染防止対策地域連携加算
・歯科外来診療環境体制加算	・患者サポート体制充実加算
・歯科診療特別対応連携加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・特定機能病院入院基本料 一般(7:1)	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料 精神(13:1)	・ハイリスク分娩管理加算
・超急性期脳卒中加算	・呼吸ケアチーム加算
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算1 (20:1)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算(50:1)	・データ提出加算2
・看護職員夜間配置加算(12:1)配置加算1	・退院支援加算2
・看護補助加算2(50:1)	・精神疾患診療体制加算1
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算2
・重症者等療養環境特別加算	・精神科急性期医師配置加算
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料4
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料 小児加算
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)
・精神科応急入院施設管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(新生児)
・精神科病棟入院時医学管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・
・重度アルコール依存症入院医療管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)(Ⅱ)	・医療保護入院等診療料
・医療機器安全管理料(歯科)	・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・歯科口腔リハビリテーション料2	・エタノールの局所注入 甲状腺に対するもの
・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1(歯科)	・エタノールの局所注入 副甲状腺に対するもの
・加圧根管充填処置 手術用顕微鏡加算	・透析液水質確保加算1
・手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1(歯科)	・人工腎臓 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・歯根端切除手術 2. 歯科用3次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合	・一酸化窒素吸入療法
・歯周組織再生誘導手術	・磁気による膀胱等刺激法
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・CAD/CAM冠	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・歯科技工加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。) 同種骨移植(特殊なもの)
・歯科矯正診断料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの	・腫瘍脊椎骨全摘術
・ウイルス疾患指導料 注2の加算	・頭蓋内腫瘍摘出術 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・高度難聴指導管理料	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・糖尿病合併症管理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者指導管理料1	・羊膜移植術
・がん患者指導管理料2	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん患者指導管理料3	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・外来緩和ケア管理料	・網膜再建術
・移植後患者指導管理料 臓器移植後	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・移植後患者指導管理料 造血幹細胞移植後	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・糖尿病透析予防指導管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・院内トリアージ実施料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)

・外来放射線照射診療料	・内視鏡下筋層切開術
・ニコチン依存症管理料	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・がん治療連携計画策定料	・経皮的動脈弁置換術 ⇒ 経カテーテル動脈弁置換術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・排尿自立指導料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・薬剤管理指導料	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）
・医療機器安全管理料2	・両室ペースキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースキング機能付き植込型除細動器交換術
・在宅患者訪問看護・指導料	・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	・補助人工心臓
・持続血糖測定器加算	・植込型補助人工心臓（非拍動流型）
・造血器腫瘍遺伝子検査	・経皮的動脈遮断術
・遺伝学的検査の注	・胆管悪性腫瘍手術 膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うもの
・HPV核酸検出 HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・体外衝撃波胆石破碎術
・検体検査管理加算（IV）	・腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）
・国際標準検査管理加算（検体検査判断料加算）	・腹腔鏡下肝切除術（（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く。）、2区域切除及び3区域切除以上のもの）
・遺伝カウンセリング加算	・生体部分肝移植術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・同種死体肝移植術
・植込型心電図検査	・体外衝撃波膵石破碎術
・時間内歩行試験	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・胎児心エコー法	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・ヘッドアップティルト試験	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・神経学的検査	・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・コンタクトレンズ検査料1	・同種死体腎移植術
・小児食物アレルギー負荷検査	・生体腎移植術
・内服・点滴誘発試験	・膀胱水圧拡張術
・センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る）併用法	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る）単独法	・人工尿道括約筋植込・置換術
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術 [※小切開術]
・ポジトロン断層撮影	・輸血管理料 I
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・麻酔管理料(I)
・冠動脈CT撮影加算	・麻酔管理料(II)
・心臓MRI撮影加算	・放射線治療専任加算
・乳房MRI撮影加算	・外来放射線治療加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・高エネルギー放射線治療
・外来化学療法加算1	・1回線量増加加算
・無菌製剤処理料	・強度変調放射線治療(IMRT)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・運動器リハビリテーション料(I)	・定位放射線治療
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・各リハビリテーションの初期加算	・密封小線源治療 画像誘導密封小線源治療加算
・がん患者リハビリテーション料	・保険医療機関間の連携による病理診断
・精神科作業療法	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	・病理診断管理加算2

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高脂肪食摂取が腸疾患に与える影響における腸内細菌と腸内代謝物の関与の検証	西海 信	消化器内科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
乳癌および肺癌におけるTYRO3を標的とする治療法開発の妥当性の検討	南 博信	腫瘍・血液内科学 ／腫瘍センター	260,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
心不全発症・進展の超早期予知を目的とした新規バイオマーカーの探索	杜 隆嗣	立証検査医学分野	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
我国におけるトランス脂肪酸の動脈硬化リスクとしての評価	新家 俊郎	循環器内科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ホスホリパーゼCεを介した急性肺障害の新規治療法の開発	小林 和幸	呼吸器内科学	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
肥満病態形成におけるPGC1α新規スライミングバリエーションの役割	野村 和弘	糖尿病・内分泌内科学部門	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
2型糖尿病関連遺伝子Kcnq1遺伝子領域が膵β細胞に及ぼす影響の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌内科学部門	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
Rabファミリー低分子量G蛋白質を標的とした神経芽腫の新しい治療法に関する研究	西村 範行	小児科	780,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
次世代シーケンサーのメタゲノミック解析を用いた新生児感染症の病原微生物の同定	森岡 一郎	小児科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
超早産児における光線療法の実用化基準確立のための多施設共同研究	中村 肇	小児科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
自殺感受性遺伝子の中樞神経系における機能解析	菱本 明豊	精神医学／精神科神経科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
MRIによる肝血管内皮機能測定法の開発	吉川 武	放射線医学／放射線科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
生体質感造形3Dプリンターによる臓器立体モデル腹腔鏡手術支援システムの確立	杉本 真樹	消化器内科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
転移性進行大腸癌に対するMDSCを標的とした新規治療戦略の開発	山本 将士	栄養管理部／医療技術部栄養管理部門	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
マイクロRNA-21を用いた新たな脳梗塞治療薬の開発	水川 克	脳神経外科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
mTORシグナルを介したグルタミン代謝機構の解析とグリオーマ新規治療法の開発	田中 一寛	脳神経外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
肉腫幹細胞に対する炭酸ガス経皮投与を用いた新規治療の開拓	河本 旭哉	整形外科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
炭酸ガスを利用した難治性骨折の新規治療法開発	新倉 隆宏	整形外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
長寿因子SIRT1による変形性関節症の治療の試み	松下 雄彦	整形外科	260,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
去勢抵抗性前立腺癌における上皮間葉転換の制御機構の解明と標的治療への応用	村蒔 基次	腎泌尿器科学／泌尿器科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
男性不妊における酸化ストレスの意義と新しい治療法の探求	千葉 公嗣	腎泌尿器科学／泌尿器科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
β2GPI/MHCクラスIIIに対する自己抗体の証明と産科異常病因解析	山田 秀人	産科婦人科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
子宮頸部胃型腺癌の分子基盤の解明とそれに基づく治療方法の開発	須藤 保	肝胆膵外科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
唾液腺がんの免疫組織学的特徴及び特異的遺伝子変化の探索	清田 尚臣	腫瘍・血液内科学 ／腫瘍センター	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
網膜・視神経変性疾患におけるアクアポリンの関わり	中村 誠	眼科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
成人低酸素症時の100%酸素蘇生による脳高次機能に及ぼす影響とその治療法の確立	西山 隆	災害・救急医学／救命救急科／救急部	2,860,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
網羅的メタボローム解析によるインプラントリスクファクター検出法の確立	鈴木 泰明	口腔外科学／歯科 口腔外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
視機能異常の患者に対応した、病院内の施設と接遇に関する指針の確立	松浦 正子	看護部	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
終末期の話し合いの実態と生活の質・遺族の健康に及ぼす影響に関する研究	山口 崇	先端緩和医療学／緩和支援治療科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
がん疼痛治療における非ステロイド性消炎鎮痛薬の中止に関する検討	坂下 明大	先端緩和医療学／緩和支援治療科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
小児特発性ネフローゼ症候群におけるマイクロRNA発現の検討及び治療法の開発	松野下 夏樹	小児科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新生児低酸素性虚血性脳症に対する自家間葉系幹細胞治療の開発	香田 翼	小児科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
椎間板変性予防医療を目指した初期椎間板変性の病態解明	角谷 賢一朗	リハビリテーション機能回復学／リハビリテーション科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
炭酸ガス経皮吸収がラットの神経損傷修復に及ぼす効果について	西本 華子	リハビリテーション機能回復学／リハビリテーション科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
中咽頭癌治療効果とADH,ALDH遺伝子多型に関する研究	四宮 弘隆	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
メタボロミクスによる頭頸部癌の診断・治療法の確立	森本 浩一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
網膜血管新生におけるSIRT1の役割の解明及びSIRT1活性化経路の解析	松宮 亘	眼科学	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ドセタキセル溶出性ビーズによる肝動脈化学塞栓療法の基礎的研究	岡田 卓也	放射線医学／放射線科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
母斑(ほくろ)における毛髮誘導再生能の検討	寺師 浩人	形成外科学	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
多元計算解剖モデルと生体質感造形技術を融合した高度知能化治療支援システムの確立	杉本 真樹	消化器内科	2,210,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
造血幹細胞ニッチ制御モジュールの加齢性変化と造血システム異常の関連	片山 義雄	血液内科	5,590,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
福山型筋ジストロフィーおよびジストログリカノパチーの分子病態解明と治療薬開発	戸田 達史	神経内科学	11,960,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
椎間板の変性に関連する腰痛性疾患の病態の解明と、低侵襲治療システムの開発	西田 康太郎	整形外科	5,590,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
PGC1 α による骨格筋エネルギー代謝制御機構の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学部門	5,330,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
造血制御中枢としての骨組織の評価	片山 義雄	血液内科	5,460,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
MRI解析に基づく変位・変形能を反映した精緻脳模型の開発	林 成人	脳神経外科	260,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
画像認識による新しい3次元動作追跡法を用いた3D内視鏡手術教育システムの開発	金治 新悟	食道胃腸外科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
移植腎3T-MRIにおける拡散係数値(ADC値)による腎線維化評価の有用性	石村 武志	腎泌尿器科学／泌尿器科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
2型糖尿病に対する新規分子標的薬の確立	松田 友和	糖尿病・内分泌内科学部門	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
IgG4関連硬化性胆管炎の網羅的組織プロテオーム・リン酸化修飾解析	全 陽	病理診断学／病理診断科／病理部	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
患者由来ゼノグラフトと3次元初代培養を用いた抗腫瘍薬感受性予測モデルの開発	向原 徹	腫瘍・血液内科学／腫瘍センター	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
大動脈石灰化のCTイメージングとメタボローム解析による革新的治療法の探求	高谷 具史	循環器内科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
鍼治療による加齢性サルコペニア予防法の確立	大田 美香	医療情報部	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
代謝制御機構解析に基づく新たな心不全治療戦略の構築	田中 秀和	循環器内科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
医工・産学連携研究による、虚血性心疾患に対する血行力学的新規アプローチ	大竹 寛雅	循環器内科学	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新規HDL機能評価法の実用化と冠動脈疾患リスクの層別化	石田 達郎	地域医療ネットワーク学	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
動脈硬化における炎症・免疫機序の解明および新規治療法・予防法の開発	佐々木 直人	循環器内科学	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
先天性腎尿路奇形(CAKUT)の新規原因遺伝子の同定とIPS細胞による病態解明	森貞 直哉	小児科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
脂肪細胞の質的異常モデルを用いた代謝異常症およびNASHの分子機構の解明	細岡 哲也	糖尿病・内分泌内科学部門	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
PKG/VASPシグナルの糖代謝に与える影響の解明	楯谷 三四郎	糖尿病・内分泌内科学部門	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
自己免疫性下垂体疾患の発症メカニズムの解明と臨床応用	井口 元三	糖尿病・内分泌内科学部門	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
下垂体腺腫発症に関連するlncRNAの探索とその機能解析	福岡 秀規	糖尿病・内分泌内科学部門	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
Nogo分子を標的とする自然免疫と小胞体形成を介した新規白血病治療法の開発	松岡 広	腫瘍・血液内科学／腫瘍センター	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
細胞内代謝制御による関節リウマチの新規治療法の開発	三枝 淳	検査部	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
マイクロRNA含有エクソソームを用いた関節リウマチの新規治療の開発	中町 祐司	検査部	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
福山型筋ジストロフィーの臨床評価法の確立と核酸治療の適応拡大を目指した包括的研究	池田 真理子	小児科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
遺伝性塩類喪失性尿管機能異常症の発症メカニズムの解明および治療法の開発	野津 寛大	小児科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
紫外線皮膚炎症の終息における表皮ランゲルハンス細胞・アポトーシス細胞の役割	福永 淳	皮膚科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
幼少期ストレスが成体海馬神経細胞新生に及ぼすエピジェネティクス作用の解析	朴 秀賢	精神医学／精神科神経科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
非健忘型アルツハイマー病患者のアミロイドPETを用いた脳アミロイド沈着の解析	山本 泰司	精神医学／精神科神経科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
超短エコー時間核磁気共鳴画像法を用いた新たな肺形態・機能画像診断法の開発	大野 良治	放射線医学／放射線科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
プロフィラクティック食品の消化管有害反応低減によるメタボロミック放射線療法	岡本 欣晃	放射線腫瘍科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
放射光白色X線を用いた超高線量率X線照射における放射線生物学的効果についての検討	宮脇 大輔	放射線腫瘍科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
進行食道癌におけるペプチドプールを用いた術後補助免疫療法の確立	中村 哲	食道胃腸外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
肝灌流化学療法システムへの白金製剤の導入	武部 敦志	肝胆膵外科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
虚血および再灌流時の脳組織代謝変化のオミクスによる包括的解析	細田 弘吉	脳神経外科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
中枢神経悪性リンパ腫におけるJAK-STAT阻害薬による新たな治療法の開発	西原 賢在	脳神経外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
経鼻的内視鏡下頭蓋底手術システムの構築のための研究	谷口 理章	脳神経外科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
椎間板変性に対する薬物治療へのアプローチ	前野 耕一郎	整形外科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
microRNAをターゲットとした新規骨再生療法の開発	大江 啓介	整形外科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
p21発現制御による変形性関節症に対する治療への挑戦	西山 隆之	整形外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
変形性関節症におけるEPAの治療薬としての有効性検討	林 申也	整形外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新生児期の術後痛がもたらす神経発達異常におけるエピジェネティック制御の関与	野村 有紀	麻酔科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
侵害受容性、神経障害性、がん性の痛みに対する多角的治療の効果	溝淵 知司	麻酔科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
リンパ腫から見つかった「がん抑制遺伝子」が子宮体癌の治療戦略を変える。	若橋 宣	産科婦人科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
音響外傷性難聴に対するプログラムされたネクロシスによる細胞死制御機構	山下 大介	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
嗅上皮形態形成の機構解明並びに嗅覚機能との結びつき	勝沼 紗矢香	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
糖尿病網膜症の発症におけるMrp4の役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
視覚障害者向け患者用クニカルパス(診療計画書)作成の研究	高岡 裕	医療情報部	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
五感による造血制御: かおり	片山 義雄	血液内科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
エクソソームを用いた新たな頭頸部癌のバイオマーカーの開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
LED光を用いた頭頸部癌化学放射線療法に伴う口腔粘膜炎症の新規治療法の開発	古森 孝英	口腔外科学/歯科 口腔外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
H. suis感染による胃MALTリンパ腫形成とTLR4シグナル活性化機構の解明	山本 幸司	消化器内科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
関連施設における乳頭括約筋機能障害の有病率及び内視鏡的圧測定法の診断妥当性の検証	増田 充弘	消化器内科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ケトン体が非アルコール性脂肪性肝疾患の進行に与える影響の解析	川野 佑輝	消化器内科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ヒトヘルペスウイルス6B感染児におけるCD134発現T細胞の証明	長坂 美和子	小児科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
てんかん重積状態の脳傷害に対する間葉系幹細胞を用いた新規治療法の開発	西山 将広	小児科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ニホンウナギ由来蛍光蛋白質を用いた新しい血清アンパウンド・ビリルビン測定法の開発	岩谷 壮太	小児科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
色素性乾皮症における症状とDNA修復能との解析および治療の探索	中野 英司	皮膚科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
悪性黒色腫の免疫治療における骨髄由来抑制細胞の動態・機能解析とその制御	藤原 進	皮膚科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
統合失調症の神経免疫仮説におけるマクロファージ遊走阻止因子(MIF)の役割	岡崎 賢志	精神医学／精神科 神経科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
iPS細胞を用いた統合失調症グルタミン酸仮説の検討	毛利 健太郎	精神医学／精神科 神経科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
脂肪定量MRIによるNASHスクリーニング: R2*を用いた至適カットオフ値の検討	祖父江 慶太郎	放射線医学／放射線科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アジア人及び高齢者を対象としたMRI対応画像誘導小線源治療用アプリケーションの開発	上 蘭 玄	放射線医学／放射線科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
Platelet Rich Plasmaを用いた新規放射線有害事象の治療法開発	松尾 圭朗	放射線腫瘍科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
髄液中マイクロRNAとメタボロミクス融合による新たな脳腫瘍診断・病態解析法の構築	中溝 聡	脳神経外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
骨格筋内脂肪細胞によるアディポカインが慢性疼痛発生に及ぼす影響の解明	坂田 亮介	整形外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
炭酸ガス治療による人工関節置換術後リハビリテーション促進効果の解析	高山 孝治	整形外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
腱炎・腱鞘炎に対する炭酸ガス経皮吸収の有効性の検討	原田 理沙	リハビリテーション 機能回復学／リハビリテーション科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
転移性腎細胞癌に対するHedgehog経路に対する新規標的治療	古川 順也	腎泌尿器科学／泌尿器科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
唾液腺癌の悪性度別機能と新たな全身治療の開発	四宮 瞳	耳鼻咽喉科頭頸部 外科学	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
局所的炭酸ガス投与による口腔癌転移抑制効果の検討	長谷川 巧実	口腔外科学／歯科 口腔外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
細胞間接着複合体に着目した転移リンパ節内微小リンパ管網の特質性の解明	明石 昌也	口腔外科学／歯科 口腔外科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
メタボローム解析による術中MRS精度の検証	甲田 将章	脳神経外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
特定波長光の照射・遮蔽による悪性黒色腫細胞の増殖コントロール	高須 啓之	形成外科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
トランス脂肪酸の深部静脈血栓症に及ぼす影響と分子メカニズムの解明	中島 英人	循環器内科学	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
1型糖尿病でのスカベンジャー受容体SR-AとTLR4のクロストークの役割の解明	清水 まみ	糖尿病・内分泌内 科学部門	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
次世代シーケンシング技術を用いた東アジア地域の高悪性化ピロリ菌に関する研究	岩本 彰	消化器内科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アルポート症候群の分子治療法の確立	飯島 一誠	小児科	3,770,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
肺腺癌浸潤における癌幹細胞の役割についてのiPS細胞技術を用いた研究	眞庭 謙昌	呼吸器外科	3,640,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
運動による積極的熱産生増大システムの温度生物学的意義とその制御機構の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌内 科学部門	4,550,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
スピリチュアルケアを取り入れたアドバンス・ケア・プランニングの有効性の検証	木澤 義之	先端緩和医療学／緩和支援治療科	4,940,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
疾患特異的iPS細胞を用いた先天性下垂体形成不全の病態解明	高橋 裕	糖尿病・内分泌内科学部門	6,500,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
AD/HDのiPS細胞を用いた生物モデルの解析	曾良 一郎	精神医学／精神科神経科	6,500,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
次世代・圧縮型スパーサーを用いた超低侵襲・空間可変放射線治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	4,680,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
低酸素免疫応答の解明と免疫システムを用いた集学的治療への展開	掛地 吉弘	食道胃腸外科	4,810,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
増殖制限型アデノウイルスベクターを用いた頭頸部癌に対する新たな治療法の開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	6,500,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アジアにおけるヘリコバクター・スライス感染起因胃マルトリンパ腫の実態調査研究	東 健	消化器内科	6,760,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
運動療法による炎症制御機構：脂質メディエーターを介した新規機序の解明	小林 成美	循環器内科学	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ChREBPによるGLUT2の発現制御を介した血糖調節機構の解明	中川 勉	薬剤部	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
グルタミン代謝経路の解明による新規がん治療法の開発	入野 康宏	立証検査医学分野	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
薬剤性肺線維症の分子メカニズムの解明とゲノム薬理学的解析の統合的研究	山本 和宏	薬剤部	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アディポカインとケモカインの特性を併せ持つケマリンの代謝と炎症調節機構の解明	高橋 路子	栄養管理部／医療技術部栄養管理部	2,210,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
抗がん剤による神経障害の発現機序の解明	久米 学	薬剤部	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新規CEACAM1ライガンドの同定とその機能解析	近藤 靖之	消化器内科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
脂肪酸が不整脈と血栓形成に及ぼす影響の解明	福沢 公二	循環器内科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
免疫寛容誘導による新規動脈硬化予防法の開発	山下 智也	循環器内科学	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
プロテオーム解析によるレタス誘発性喘息の原因抗原の同定	大寺 博	呼吸器内科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
高密度表面筋電図・筋超音波同時記録システムによる筋萎縮性側索硬化症の診断法開発	関口 兼司	神経内科学	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
脂肪細胞のエネルギー代謝を規定する脂肪滴形態とミトコンドリア量の制御機構の解明	田守 義和	糖尿病・内分泌内科学部門	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
エクソーム解析とiPS細胞を用いた受容体後障害によるインスリン抵抗症遺伝子の同定	廣田 勇士	糖尿病・内分泌内科学部門	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
血糖降下薬がmTORC1調節を介して糖尿病発症抑制効果を示す可能性に関する検討	木村 真希(小柳真希)	糖尿病・内分泌内科学部門	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
骨髄由来抑制細胞の炎症における役割の解明と新規免疫抑制療法の開発	森信 暁雄	免疫内科学	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
マイクロRNAの関与リウマチ関連標的分子に関する研究	河野 誠司	総合臨床教育センター	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
小児ステロイド抵抗性ネフローゼの疾患遺伝子パネル構築と免疫因子検査体制の整備	庄野 朱美	小児科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
色素性乾皮症マウスを用いた紫外線発がん抑制因子の探索—炎症反応をコントロールする	国定 充	皮膚科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
美白剤の色素細胞障害性における酸化ストレスの関与	錦織 千佳子	皮膚科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ロボット支援腎部分切除術の基準解剖自動認識と腎機能予後判定一体評価システムの構築	高橋 哲	放射線医学／放射線科	3,250,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
VX2肝腫瘍モデルにおける炭酸ガス併用選択的動注化学療法の効果の検討	山口 雅人	放射線医学／放射線科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
MRIベース小線源治療におけるADC値の4次元解析ソフトウェア開発と有用性の検討	吉田 賢史	放射線腫瘍科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
腫瘍ターゲティング能を有した過酸化チタンナノ粒子による放射線増感治療の基礎研究	中山 雅央	放射線腫瘍科	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新規マグネシウム合金を用いた自動縫合器に搭載可能な吸収性ステープルの研究開発	福本 巧	肝胆膵外科学	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
同種異系反応に伴う免疫活性化機構の解明と新規標的分子の同定	山下 公大	食道胃腸外科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
間葉系幹細胞を利用した膵液瘻発症予防・難治性膵液瘻治療法の確立	浅利 貞毅	肝胆膵外科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
位相差X線CTと免疫染色法を用いたヒト動脈管組織の微細構造と機能解析	大嶋 義博	心臓血管外科	2,210,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
糖化および酸化ストレス抑制による肩関節変性断裂の予防	美船 泰	整形外科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ホウ素中性子捕捉療法の適応を目指した骨軟部腫瘍におけるLAT-1発現の検討	藤本 卓也	整形外科	2,600,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
前十字靭帯損傷膝に伴う軟部組織損傷の膝回旋不安定性に及ぼす影響についての調査	星野 祐一	整形外科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
成人低酸素症に対する100%酸素蘇生による臓器障害発生機序とその治療戦略の確立	植木 正明	災害・救急医学／救命救急科／救急部	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
糖尿病合併敗血症患者の急性期血糖降下指数が予後に与える影響の解明	江木 盛時	麻酔科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
尿路感染症における多剤耐性菌の迅速診断・迅速疫学診断法の確立	重村 克巳	腎泌尿器科学／泌尿器科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
精子形成におけるrapgef6の機能解析と新しい男性不妊治療の開発	藤澤 正人	腎泌尿器科学／泌尿器科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
サイトカインシグナル阻害分子(SOCS)導入による頭頸部癌に対する遺伝子治療	大月 直樹	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
中心性漿液性脈絡網膜症における感受性遺伝子の同定とその臨床応用	本田 茂	眼科学	2,860,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
動静脈奇形における新生血管の分子制御機構 ～病的血管はいかに新生するか？～	野村 正	形成外科学	3,120,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
皮膚の光シグナル変換機序の解明とその機能の探索	榊原 俊介	美容外科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
歯科健診・指導の継続による歯周病と生活習慣病の改善効果	時岡 早苗	口腔外科学／歯科 口腔外科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
看護記録の質的点検を自動化する内容監査プログラムの研究開発	菅野 亜紀	医療情報部	2,730,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
グラウンディングを応用した自動手術記録システムの開発	原田 仁	食道胃腸外科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
行動経済学に基づいた終末期の医学上の決定に影響を与えるバイアスに関する実験的研究	木澤 義之	先端緩和医療学／緩和和支持治療科	780,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
精神疾患由来幹細胞からの中脳皮質辺縁系ドーパミン神経(A10)の解析	曾良 一郎	精神医学／精神科神経科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
過酸化ナノチタン粒子の原子設計と新規ラジカル放射線増感療法の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	650,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新しい生体吸収性金属(マグネシウム合金)を用いた吸収性障断端閉鎖クリップの開発	外山 博近	肝胆膵外科学	1,040,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
画期的な気管挿管器具の開発を目指した研究	大井 まゆ	麻酔科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
Leydig細胞の分化誘導	石田 貴樹	腎泌尿器科学／泌尿器科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
アミノ酸感知センサーGCN2が高脂肪食負荷により2型糖尿病発症に及ぼす影響	神野 歩	糖尿病・内分泌内科学部門	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
在宅重症児の家族は医師にどのようなコミュニケーションを望むかー混合研究法を用いて	余谷 暢之	先端緩和医療学／緩和和支持治療科	520,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
高精度温度制御マルチガスプラズマ源の開発と内視鏡下の止血応用に向けた基礎研究	高松 利寛	消化器内科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
胆管内乳頭状腫瘍IPNBのエクソーム解析と病理診断の基盤構築	藤倉 航平	病理診断学／病理診断科／病理部	2,990,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
血管内皮特異的制御性T細胞とB細胞誘導による動脈硬化の制御法の開発	笠木 伸平	検査部	2,600,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
血液と唾液を用いた障疾患スクリーニング、および、悪性度評価システムの構築	小林 隆	消化器内科	2,340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
新規の接着因子、JCADの血栓症への影響の解明	原 哲也	循環器内科学	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
EGFR-TKIIによる皮膚障害機構の解明と克服	田村 大介	呼吸器内科学	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ALI/ARDSにおけるスフィンゴ脂質シグナル機構の解明	山本 正嗣	呼吸器内科学	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
Collagenofibrotic glomerulopathyの病態解明	後藤 俊介	腎臓内科学部門／腎・血液浄化センター	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ケミカルプロテオミクスによる新規インスリン分泌増強メカニズムの解明	菅原 健二	糖尿病・内分泌内科学部門	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
骨髄由来抑制細胞を利用した自己免疫疾患の新規治療	西村 啓佑	膠原病リウマチ内科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
網羅的遺伝子解析を利用したAlport症候群の診断体系の確立	山村 智彦	小児科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
レニンアンギオテンシン系に注目した先天性腎尿路奇形の末期腎不全進展機序の解明研究	石森 真吾	小児科	1,170,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
神経芽腫の発症・進展におけるDENND2Aの役割に関する研究	山本 暢之	小児科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
刺激誘発型蕁麻疹の診断・治療法の確立	鷲尾 健	皮膚科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
男性統合失調症におけるX染色体上CpGアイランドの異常高メチル化の機能解析	大塚 郁夫	精神医学／精神科神経科	1,690,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
自殺者血液・死後脳におけるテロメア長およびミトコンドリアDNAコピー数の解析	白岩 恭一	精神医学／精神科神経科	2,080,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マイクロビームX線を用いた放射線抵抗腫瘍に対する超高線量率定位放射線治療の検討	椋本 成俊	放射線腫瘍科	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
"位相差画像"を用いたCT画像ノイズ低減法の臨床応用への実証研究	西井 達矢	放射線医学/放射線科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
胃癌におけるProx1の役割と分子機構	植田 康司	食道胃腸外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
血管内皮増殖因子受容体の異常による先天性水頭症の発症機序	音羽 泰則	食道胃腸外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
抗VEGF抗体ベバシズマブによる膠芽腫での代謝モデリングの解明と治療への応用	田中 宏知	脳神経外科	2,210,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
mTORシグナル制御による椎間板変性治療法の開発	由留部 崇	整形外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
膝前十字靭帯再建術後筋力回復促進へのハイドロゲル炭酸ガス療法の有効性	荒木 大輔	整形外科	1,560,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
心臓大血管手術における溶血関連急性腎障害の予防法の検討	久保田 健太	麻酔科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
嗅神経細胞の再生医療	福田 有里子(橋本有里子)	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
中心性脈絡網膜症の病態におけるアドレノメデュリンの関連解明	三木 明子	眼科学	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
細胞間接着分子を介した新たな唾液腺疾患の病態解明	北山 美登里(吉田)	口腔外科学/歯科 口腔外科	1,950,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
口腔癌におけるチタンナノ粒子の有効性に関する研究	寛 康正	口腔外科学/歯科 口腔外科	910,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
癌幹細胞周囲微小環境に着目した転移抑制効果の検討	武田 大介	口腔外科学/歯科 口腔外科	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
口腔腫瘍悪性化および増殖と環境因子との相関-TRPチャンネルをめぐって-	榊原 晶子	医療の質・安全管理部	1,300,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
転写因子KLF15による骨格筋と肝臓の臓器相関を介した代謝制御に関する研究	岡田 裕子	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
ヘムオキシゲナーゼ-1制御を介した早産児敗血症の新規治療法の開発	藤岡 一路	小児科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
超・高線量率マイクロソフトX線照射を用いた多発肺転移の新規治療戦略	川口 弘毅	放射線腫瘍科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
慢性心不全患者に対する、下肢陽圧負荷心エコー図検査による予後予測効果に関する検討	松本 賢亮	循環器内科	2,730,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
血管内皮接着因子、JCADによるプラーク不安定化機序の解明-血管新生に注目して-	川合 宏哉	循環器内科	1,430,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
極低出生体重児と自閉スペクトラム症児の発達特徴に関する研究	万代 ツルエ	小児科	340,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
胆管内乳頭状腫瘍IPNBのエクソーム解析と病理診断の基盤構築	藤倉 航平	病理診断学/病理診断科/病理部	390,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
スペシャルポピュレーション投与設計のための実臨床におけるファーマコメト릭ス	矢野 育子	薬剤部	1,820,000	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
CXCL12をターゲットとした新規MDS治療モデルの開発	阿部 志保	病理診断科	717,589	(補委) 独立行政法人日本学術振興機構
小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルブ口酸ナトリウム多施設共同医師主導治験の実施研究	西尾 久英	疫学	6,760,000	(補委) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
多施設共同研究による肝移植後肝炎ウイルス新規治療の確立と標準化	具 英成 (福本 巧)	肝胆膵外科学	300,001	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Borderline resectable膵癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究	具 英成 (福本 巧)	肝胆膵外科学	200,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
骨肉腫の増悪化に関与するRor2チロシンキナーゼの基質同定とその治療標的としての応用	林 真琴	細胞生理学	4,920,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による新規肝炎/肝癌治療法の開発	的崎 尚	シグナル統合学	1,300,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	1,300,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	2,210,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	500,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	390,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
膵がん検診の効率化を目指した血液バイオマーカーの実用化研究	東 健	消化器内科学	10,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児難治性ネフローゼ症候群に対する新規治療法の開発を目指した全国多施設共同臨床試験	飯島 一誠	小児科学	40,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児リンパ腫の標準的治療法確立のための研究	飯島 一誠	小児科学	1,500,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関する臨床試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	390,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医薬品としての薬事承認申請をめざしたアンチセンス核酸による福山型筋ジストロフィー治療薬探索と非臨床試験	戸田 達史	神経内科学	63,700,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
次世代シーケンサーを用いた孤発性の神経難病の発症機構の解明と治療法開発に関する研究	戸田 達史	神経内科学	29,900,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
福山型筋ジストロフィーの自然歴の把握と病状を反映するバイオマーカーの検索	戸田 達史	神経内科学	14,950,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究	西 慎一	腎臓・免疫内科学	1,200,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	藤澤 正人	腎泌尿器科学	273,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究	菱本 明豊	精神医学	1,300,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳脊髄液サンプルを用いたうつ病バイオマーカーの開発	菱本 明豊	精神医学	1,040,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
培養細胞感染系が確立されていない病原体の新たな感染複製系等の開発とそれを用いた診断・治療・予防法の開発に向けた研究	勝二 郁夫	微生物学	1,400,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
O型肝炎における慢性肝炎から発がんに至るまでの病態解明とその制御に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	1,750,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ウイルス肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	3,900,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
色素性乾皮症のiPS細胞を用いた病態解明と治療法の開発	錦織 千佳子	皮膚科学	30,880,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム不安定性を示す難治性遺伝性疾患群の症例収集とゲノム・分子機能解析による病態解明研究	錦織 千佳子	皮膚科学	2,400,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
吸収性スプレーを用いた体内空間可変粒子線治療の有用性と安全性の検討	佐々木 良平	放射線腫瘍科	17,883,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
チロシンキナーゼ阻害薬による慢性骨髄性白血病の治療を目指した研究	南陽介	輸血細胞治療部	1,200,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ワクチンによって予防可能な疾患のサーベイランス強化と新規ワクチンの創出等に関する研究	森康子	臨床ウイルス学	1,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン作成に関する研究	大北裕	心臓血管外科学	250,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ホルモン受容機構異常症診療ガイドライン作成のためのエビデンス構築に関する研究	小川渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	650,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	高橋裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	400,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
前向き大規模コホート研究において既に収集されているがん罹患前試料・情報を用いた発がんリスク要因の探索と層別化に関する研究	吉田優	病因病態解析学	6,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
福山型筋ジストロフィー及び類縁疾患の中核細胞移動障害の回復を目指した基盤技術開発研究	池田真理子	小児科学	5,600,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
頭頸部癌全国症例登録システムの構築と臓器温存治療のエビデンス創出	丹生健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	46,150,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対する標準的化学療法確立に関する研究	立原素子	呼吸器内科学	649,999	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するテモゾロミドを用いた標準治療確立に関する研究	甲村英二	脳神経外科学	625,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
母子感染に対する母子保健体制構築と医療技術開発のための研究	山田秀人	産科婦人科学	2,184,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
不育症の原因解明、予防治療に関する研究	山田秀人	産科婦人科学	1,690,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝炎ウイルスの感染複製増殖と病原性発現を阻止するための基盤的研究	勝二郁夫	感染制御学	2,500,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者の多剤処方見直しのための医師・薬剤師連携ガイド作成に関する研究	平井みどり	薬剤部	700,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腫瘍特異的な低線量放射線治療を実現する無機/有機ハイブリッドナノ粒子の有効性評価	佐々木良平	放射線腫瘍科	884,616	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医薬品開発時の薬物依存症の評価のための薬理的アプローチに関する研究	古屋敷智之	薬理学	1,300,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
希少・難治性疾患領域における臨床ゲノムデータストレージの整備に関する研究	飯島一誠	小児科学	8,840,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
喉頭・下咽頭癌における最適な喉頭温存治療法に関する研究	丹生健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	520,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
上顎洞癌の治療最適化に関する研究	丹生健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	650,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
鼻副鼻腔悪性腫瘍に対する内視鏡下頭蓋底手術の標準化を目指した多施設共同研究	丹生健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	260,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HPV関連中咽頭癌の治療最適化に関する研究	丹生健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	400,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
病理医不足を解決するWSIを用いた医療チームによるMedical Artsの創成研究	伊藤智雄	病理部	350,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
睡眠脳波を用いたうつ病の客観的評価方法の実用化に関する研究	大森崇	臨床研究推進センター	3,978,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自家末梢血CD34陽性細胞移植による骨・血管再生療法に関する医師主導治験	新倉隆宏	整形外科	5,200,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腎・泌尿器系の希少・難治性疾患群に関する診断基準・診療ガイドラインの確立	飯島一誠	小児科学	22,500,000	補委 厚生労働省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	錦織 千佳子	皮膚科学	27,343,000	補委 厚生労働省
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	荒川 創一	地域医療ネットワーク学	5,500,000	補委 厚生労働省
内耳自己免疫病の診断のための内耳特異的抗体検査法の確立に関する研究	柿木 章伸	地域医療ネットワーク学	889,000	補委 厚生労働省
小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究	前田 貢作	小児外科学	350,000	補委 厚生労働省
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	320,000	補委 厚生労働省
薬物乱用・依存者、性感染症患者のHIV感染状況及び内外のHIV流行等の動向に関する研究	荒川 創一	地域医療ネットワーク学	500,000	補委 厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎臓・免疫内科学	250,000	補委 厚生労働省
機能亢進型GNAS変異関連疾患の表現型スペクトラムに関する研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	100,000	補委 厚生労働省
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	高橋 裕	糖尿病・内分泌・総合内科学	150,000	補委 厚生労働省
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	戸田 達史	神経内科学	350,000	補委 厚生労働省
免疫毒性評価試験法Multi-ImmunoToxicity assayの国際validationへ向けての検討	大森 崇	臨床研究推進センター	640,000	補委 厚生労働省
小児摂食障害におけるアウトカム尺度の開発に関する研究—学校保健における思春期やせの早期発見システム構築、および発症要因	北山 真次	親と子の診療部	200,000	補委 厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	中村 誠	眼科学	100,000	補委 厚生労働省
スモンに関する調査研究	戸田 達史	神経内科学	500,000	補委 厚生労働省
指定難病に該当する胎児・新生児骨系統疾患の現状調査と診療ガイドラインの改定に関する研究	大森 崇	臨床研究推進センター	700,000	補委 厚生労働省
筋ジストロフィーおよび関連疾患の診断・治療開発を目指した基盤研究	戸田 達史	神経内科学	1,000,000	補委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
頭頸部がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	2,800,000	補委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
抗悪性腫瘍薬の毒性機序探索研究における標準化に関する研究	南 博信	腫瘍・血液内科	200,000	補委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
ネクチン関連分子と増殖因子受容体/インテグリンの相互作用を標的としたがん治療法	高井 義美	病態シグナル学	30,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん微小環境を制御するRas標的蛋白質PLCεの選択的阻害剤の開発	片岡 徹	分子生物学	28,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
貪食細胞-がん細胞相互作用を制御する新たながん免疫療法の開発	的崎 尚	シグナル統合学	24,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
癌抑制遺伝子を標的とする癌治療法の開発	鈴木 聡	分子細胞生物学	22,843,228	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
パーキンソン病に対する真の意味のオーダーメイド治療を目指した研究	戸田 達史	神経内科学	50,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特殊ペプチドの生理活性評価	勝二 郁夫	微生物学	3,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児において疾病負荷が高い突発性発疹ウイルス感染症に対する新規ワクチン開発	森 康子	臨床ウイルス学	18,590,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
人生の最終段階における医療体制整備事業委託費	木澤 義之	先端緩和医療学	61,366,000	補 委 厚生労働省
国産医療機器創出促進基盤整備等事業	藤澤 正人	腎泌尿器科学	2,499,992	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
地域科学技術実証拠点整備事業「国産医療用ロボット等革新的医療機器の統合型研究開発・創出拠点」	藤澤 正人	腎泌尿器科学	400,000,000	補 委 文部科学省
身体疾患で惹起される免疫変容が起こす神経回路恒常性の破綻と精神症状の解明	和氣 弘明	システム生理学分野	5,590,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腸管神経系の形成と維持における組織間相互作用	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	18,200,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
包括的メタボロミクスによるバイオマーカー探索、ならびに、医療質量分析システム開発	吉田 優	病因病態解析学	59,670,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
PD患者におけるゲノムDNA/mRNAを用いたM-BM検証	戸田 達史	神経内科学	5,200,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
[J-DOIT3(追跡)]2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入終了後の追跡	坂口 一彦	糖尿病・内分泌・総合内科学	300,000	補 委 公益財団法人日本糖尿病財団
機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	金川 基	分子脳科学	12,740,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
コホートを利用した糖尿病患者の合併症進展に関する縦断研究	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学分野	300,000	補 委 国立国際医療研究センター
小児ネフローゼ症候群の疾患感受性遺伝子及び薬剤感受性遺伝子同定研究	飯島 一誠	小児科学	36,400,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
癌の分子標的薬の適応を迅速に決定する装置の開発	伊藤 智雄	病理診断科	2,377,186	補 委 公益財団法人あきた企業活性化センター

計 304

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Emoto T, Yamashita T.	循環器内科	Analysis of Gut Microbiota in	J Atheroscler Thromb. 2016 Aug 1; 23(8): 908-21	Original Article
2	Suzuki A, Fukuzawa K.	循環器内科	Monocyte-to-HDL- cholesterol ratio and	Europace. 2016 Oct 5; 19(19): 40-47	Original Article
3	Nagao M, Toh R, Irino	循環器内科	β -Hydroxybutyrate elevation as a	Biochem Biophys Res Commun. 2016 Jul 8;	Original Article
4	Irino Y, Toh R, Nagao M.	循環器内科	2-Aminobutyric acid modulates glutathione	Sci Rep. 2016 Nov 9; 6: 36749-36749	Original Article
5	Sasaki N, Yamashita T.	循環器内科	UVB Exposure Prevents	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2017 Jan; 37(1): 66-	Original Article
6	Fuji H, Yonekura Y.	腎臓内科	Comparison of the effects of novel	J Steroid Biochem Mol Biol. 2017 Mar; 167: 55-	Original Article
7	Nakai K, Fujii H, Watanabe	腎臓内科	Riser pattern is a predictor of kidney	Clin Exp Hypertens. 2016 ; 38(5): 476-81	Original Article
8	Ohara Y, Toyonaga T.	消化器内科	Usefulness of a novel slim type FlushKnife-	World J Gastroenterol. 2017 Mar 7; 23(9): 1657-	Original Article
9	Yoshizaki T, Toyonaga T.	消化器内科	Feasibility and safety of endoscopic	Endoscopy. 2016 Jul; 48(7): 639-45	Original Article
10	Ohara Y, Toyonaga T.	消化器内科	Clinical course after endoscopic	Endoscopy. 2016 ; 48(Suppl 1): E4-5	Original Article
11	Wakahara C, Morita Y.	消化器内科	Optimization of steroid injection	Acta Gastroenterol Belg. 2016 Jul-Sep; 79(2): 315-	Original Article
12	Tanaka S, Toyonaga T.	消化器内科	Feasibility and safety of endoscopic	World J Gastroenterol. 2016 Jul 21; 22(27): 6268-	Original Article
13	Jacob H, Toyonaga T.	消化器内科	Endoscopic submucosal	Endoscopy. 2016 Sep; 48(9): 829-36	Original Article
14	Ono R, Masaki T.	神経内科	A 10-year follow-up of a child with mild	Photodermatol Photoimmunol Photomed. 2016	Original Article
15	Kataoka T, Kiyota N.	腫瘍・血液内科	Randomized trial of standard pain control	Auris Nasus Larynx. 2016 Dec; 43(6): 677-84	Original Article
16	Minami H, Ando Y, Ma	腫瘍・血液内科	Phase I, multicenter, open-label, dose-	Cancer Sci. 2016 Oct; 107(10): 1477-1483	Original Article
17	Miyata Y, Yakushijin K.	腫瘍・血液内科	A prospective study of the antiemetic	Int J Hematol. 2016 Dec; 104(6): 682-691	Original Article
18	Nishimura M, Toyoda M.	腫瘍・血液内科	The combination of HLA-B*15:01 and	Cancer Chemother Pharmacol. 2016 Jun;	Original Article
19	Sanada Y, Yakushijin K.	腫瘍・血液内科	A prospective study on the efficacy of	Jpn J Clin Oncol. 2016 May; 46(5): 448-52	Original Article
20	Mori S, Anderson	放射線科	The differences between bisecting	Echocardiography. 2017 Mar; 34(3): 453-461	Original Article
21	Akashi M, Shibuya Y.	放射線科	Four-dimensional computed	J Craniomaxillofac Surg. 2016 May; 44(5): 637-41	Original Article
22	Ohno Y, Yui M, Koyama	放射線科	Chemical Exchange Saturation Transfer	Radiology. 2016 May; 279(2): 578-89	Original Article
23	Seki S, Koyama H.	放射線科	Adaptive iterative dose reduction 3D	Acta radiol. 2016 Jun; 57(6): 684-90	Original Article
24	Ohno Y, Koyama H.	放射線科	Magnetic Resonance Imaging (MRI) and	J Thorac Imaging. 2016 Jul; 31(4): 215-27	Original Article
25	Ohno Y, Yaguchi A.	放射線科	Comparative evaluation of newly	Eur J Radiol. 2016 Aug; 85(8): 1375-82	Original Article
26	Ohno Y, Koyama H.	放射線科	Contrast-enhanced CT- and MRI-based	Diagn Interv Radiol. 2016 Sep-Oct; 22(5): 407-21	Original Article
27	Ishihara T, Kitajima K.	放射線科	[18F]Fluorodeoxyglu cose uptake by	NAGOYA J MED SCI. 2017 Feb; 79(1): 27-36	Original Article
28	Shinomiya H, Hasegawa S.	放射線腫瘍科	Concomitant chemoradiotherapy	Head Neck. 2016 Apr; 38(Suppl 1): E949-53	Original Article
29	Taniguchi- Ikeda M.	小児科	Next-generation sequencing discloses	J Hum Genet. 2016 Apr; 61(4): 351-5	Original Article
30	Nozu K, Nozu Y.	小児科	Cryptic exon activation in	J Hum Genet. 2017 Feb; 62(2): 335-337	Original Article
31	Tanimura K, Tairaku S.	小児科	Prediction of Congenital	Clin Infect Dis. 2017 Jan 15; 64(2): 159-165	Original Article
32	Nozu K, Minamikawa	小児科	Characterization of contiguous gene	J Hum Genet. 2017 Mar 9	Original Article

33	Horinouchi T, Nozu K.	小児科	Diagnostic strategy for inherited	Clin Exp Nephrol. 2017 Mar 1	Original Article
34	Kamiyoshi N, Nozu K, Fu	小児科	Genetic, Clinical, and Pathologic	Clin J Am Soc Nephrol. 2016 Aug 8; 11(8): 1441-9	Original Article
35	Morisada N, Ioroi T.	小児科	A 12p13 GRIN2B deletion is associated	Hum Genome Var. 2016 Sep 15; 3: 16029-16029	Original Article
36	Yamamura T, Morisada N.	小児科	Rare renal ciliopathies in non-	Clin Exp Nephrol. 2017 Feb; 21(1): 136-142	Original Article
37	Nishiyama M, Nagase H.	小児科	Short and long-term outcomes in children	Brain Dev. 2016 Sep; 38(8): 731-7	Original Article
38	Nagasaka M, Morioka I.	小児科	Comprehensive analysis of serum	J Infect Chemother. 2016 Sep; 22(9): 593-8	Original Article
39	Iwatani S, Nakamura H.	小児科	Fluorescent protein-based detection of	Sci Rep. 2016 Jun 21; 6: 28489-28489	Original Article
40	Matsumoto M, Awano H.	小児科	A pediatric patient with interstitial	J Infect Chemother. 2016 Oct; 22(10): 712-5	Original Article
41	Nishikawa R, Nagai H, Bito	皮膚科	Genetic prediction of the effectiveness of	J Dermatol. 2016 Nov; 43(11): 1273-1277	Original Article
42	Fukumoto T, Fujiwara S.	皮膚科	Long-term survival of a patient with	Eur J Dermatol. 2016 Nov 21; .(.)	Original Article
43	Nakano E, Masaki T.	皮膚科	The present status of xeroderma	Exp Dermatol. 2016 Aug; 25(Suppl 3): 28-33	Original Article
44	Nagai H, Nishigori C.	皮膚科	A delayed reaction to the magnetic	J Allergy Clin Immunol Pract. 2017 Jan 30	Original Article
45	Yoshida T, Fukumoto T.	肝胆膵外科	Development of a new biodegradable	Surgery. 2017 Jan 31	Original Article
46	Arai K, Fukumoto T.	肝胆膵外科	Pathological complete response after	Surg Case Rep. 2016 Dec; 2(1): 50-50	Case report
47	Fukumoto T, Urade T.	肝胆膵外科	A Novel Technique for the Intraoperative	J Am Coll Surg. 2016 May; 222(5): e31-8	Original Article
48	Tauchi S, Sakai Y.	呼吸器外科	Psf3 is a prognostic biomarker in lung	Eur J Cardiothorac Surg. 2016 Oct; 50(4): 758-764	Original Article
49	Terashima Y, Kakutani K.	整形外科	Expression of adiponectin receptors	J Orthop Surg Res. 2016 Nov 22; 11(1): 147-147	Original Article
50	Takase F, Inui A.	整形外科	The effect of platelet-rich plasma	J Orthop Res. 2016 Sep 29	Original Article
51	Inui A, Nishimoto H.	整形外科	Ultrasound measurement of	Arch Orthop Trauma Surg. 2016 Sep; 136(9): 1325-	Original Article
52	Mifune Y, Inui A.	整形外科	Two Extension Block Kirschner Wires'	Case Rep Orthop. 2016 ; 2016: 8086594-8086594	Case report
53	Hayashi S, Hashimoto S.	整形外科	Stem anteverision affects periprosthetic	Hip Int. 2016 May 16; 26(3): 260-4	Original Article
54	Hayashi S, Hirata Y.	整形外科	New Proximal Femoral Compaction	Orthopedics. 2017 Mar 14:1-4	Original Article
55	Inokuchi T, Matsumoto	整形外科	Influence of the Injury-to-Surgery	Am J Sports Med. 2017 Mar 1:3635	Original Article
56	Kihara S, Havashi S.	整形外科	Cyclin-Dependent Kinase Inhibitor-1-	J Bone Miner Res. 2017 Jan 27; 32(5): 991-1001	Original Article
57	Matsushita T, Nagai K.	整形外科	Factors Associated with the Status of	Connect Tissue Res. 2017 Jan 19	Original Article
58	Kuroda R, Nagai K.	整形外科	A new quantitative radiographic	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2017	Original Article
59	Sang Yang Lee.	整形外科	Thrombin-antithrombin III	J Orthop Surg (Hong Kong). 2017 1; 25(1): 1-6	Original Article
60	Morishita M, Kawamoto T.	整形外科	AICAR induces mitochondrial	Int J Oncol. 2017 Jan; 50(1): 23-30	Original Article
61	Nagai K, Araki D.	整形外科	Biomechanical Function of Anterior	Arthroscopy. 2016 Jul; 32(7): 1359-66	Original Article
62	Iwata E, Hasegawa T.	整形外科	Transcutaneous carbon dioxide	Int J Oncol. 2016 Apr; 48(4): 1493-8	Original Article
63	Mifune Y, Inui A.	整形外科	High-resolution ultrasound in the	Skeletal Radiol. 2016 Dec; 45(12): 1661-1667	Original Article
64	Hayashi S, Hashimoto S.	整形外科	Multiple Revision Surgeries and	J Arthroplasty. 2016 Dec 14	Original Article
65	Kuroda Y, Matsumoto	整形外科	Subjective evaluation before and after total	Knee. 2016 Dec; 23(6): 964-967	Original Article
66	Kokubu T, Mifune Y.	整形外科	Arthroscopic Rotator Cuff Repair With	Arthrosc Tech. 2016 Oct 31; 5(6): e1235-e1238	Original Article
67	Kuroda R, Hoshino Y.	整形外科	Electromagnetic tracking of the pivot-	Curr Rev Musculoskelet Med. 2016 Jun; 9(2): 164-	Original Article
68	Niikura T, Lee SY.	整形外科	Antibiotic-impregnated calcium	J Orthop Sci. 2016 Jul; 21(4): 539-45	Original Article
69	Ueda Y, Matsushita T.	整形外科	Factors affecting quadriceps strength	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2016	Original Article
70	Nishida K, Matsumoto	整形外科	Remaining mild varus limb alignment leads	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2016	Original Article

71	Akahane S, Sakai Y.	整形外科	Transcutaneous carbon dioxide	Int Orthop. 2017 Feb 16	Original Article
72	Takahara S, Nijkura T.	整形外科	Human pseudoarthrosis	Injury. 2016 Jun; 47(6): 1184-90	Original Article
73	Nagashima H, Tanaka K.	脳神経外科	Diagnostic value of glutamate with 2-	Neuro Oncol. 2016 Nov; 18(11): 1559-1568	Original Article
74	Sasayama I, Tanaka K.	脳神経外科	Tumor-Associated Macrophages	Brain Pathol. 2016 Jul; 26(4): 479-87	Original Article
75	Imahori T, Fujita A.	脳神経外科	Acute Ischemic Stroke Involving Both	J Korean Neurosurg Soc. 2016 Jul; 59(4): 400-4	Original Article
76	Kimura H, Taniguchi M.	脳神経外科	Clinical Implication of Temporary	World Neurosurg. 2017 Jan; 97: 754-754	Original Article
77	Taniguchi M, Nakai T.	脳神経外科	Communicating Hydrocephalus	World Neurosurg. 2016 Oct; 94: 261-267	Original Article
78	Tanaka J, Fujita A.	脳神経外科	Coexistence of acromegaly with dural	Neuroradiology. 2016 Aug; 58(8): 839-40	Original Article
79	Taniguchi M, Akutsu N.	脳神経外科	Endoscopic endonasal translacrimum	J Neurosurg. 2016 Apr; 124(4): 1032-8	Original Article
80	Matsumoto Y, Mori S.	眼科	Impact of the anti- aquaporin-4	PLoS One. 2017 Feb 15; 12(2): e0171880-	Original Article
81	Matsumiya W, Honda S.	眼科	One-year outcome of combination therapy	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2017 Mar; 55(3): 403-410	Original Article
82	Ueda K, Kanamori A.	眼科	Effects of Axial Length and Age on	J Glaucoma. 2016 Apr; 25(4): 383-9	Original Article
83	Shinomiya H, Ito Y, Kubo	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Expression of amphiregulin in	Hum Pathol. 2016 Nov; 57: 37-44	Original Article
84	Iwaki S, Maeda T.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Role of immediate recurrent laryngeal	Head Neck. 2016 Dec 20	Original Article
85	Shimoda H, Yonezawa K.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Modified partial maxillary swing	Head Neck. 2016 Dec; 38(12): E2519-E2522	Original Article
86	Hinata N, Hussein AA.	泌尿器科	Impact of suboptimal neoadjuvant	BJU Int. 2016 Oct 15	Original Article
87	Miyake H, Miyazaki A.	泌尿器科	Significance of erection hardness	J Robot Surg. 2016 Sep; 10(3): 221-6	Original Article
88	Ebina Y, Shimada S.	産科婦人科	Divergence of helper, cytotoxic, and	Am J Reprod Immunol. 2016 Sep; 76(3): 199-204	Original Article
89	Ebina Y, Katabuchi H.	産科婦人科	Japan Society of Gynecologic	Int J Clin Oncol. 2016 Jun; 21(3): 419-34	Original Article
90	Kojima N, Tanimura K.	産科婦人科	Risk factors for postpartum glucose	Gynecol Endocrinol. 2016 Oct; 32(10): 803-806	Original Article
91	Nagamata S, Ebina Y.	産科婦人科	A Case of Uterine Leiomyosarcoma with	Kobe J Med Sci. 2016 Jul 5: 62(2): E45-8	Original Article
92	Shinozaki N, Ebina Y.	産科婦人科	Protein S deficiency complicated	Gynecol Endocrinol. 2016 Aug; 32(8): 672-674	Original Article
93	Kamiyoshi N, Nozu K.	総合周産期母子医療センター	Pathogenesis of hypokalemia in	Clin Exp Nephrol. 2016 Apr; 20(2): 253-7	Original Article
94	Ohara Y, Toyonaga T.	光学医療診療部	Endoscopic antralplasty for	Clin J Gastroenterol. 2016 Apr; 9(2): 63-7	Original Article
95	Rahmi DO, Toyonaga T.	光学医療診療部	First reported case of per anal endoscopic	Endosc Int Open. 2017 Mar; 5(3): E146-E150	Original Article
96	Fukuchi T, Iwata K.	国際診療部	Cefmetazole for bacteremia caused by	BMC Infect Dis. 2016 Aug 18: 16(1): 427-427	Original Article
97	Totsuka R, Kondo T.	薬剤部	Effects of VLA-1 Blockade on	Kobe J Med Sci. 2016 Jul 5: 62(2): E27-37	Original Article
98	Mori H, Arita K, Yamaguchi	薬剤部	Effects of Topical Application of	Kobe J Med Sci. 2016 Sep 9: 62(4): E79-E88	Original Article
99	Nakamura T, Takahashi M.	薬剤部	Changes in blood concentrations of	Biomed Rep. 2016 Dec; 5(6): 737-744	Original Article

計99件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容	
○審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 7 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 8 回
・ 研修の主な内容	
○臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learning又は臨床研究推進セミナーを受講する。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院における後期研修プログラムは、初期研修修了者を対象とし、神戸大学及び研修協力病院において専門的な臨床経験を積み、多くの領域の専門医、あるいは内科や外科ではそのサブスペシャリティーの専門医を取得する。また、地域医療に貢献する実地臨床医にも幅広い臨床研修の場を提供することも可能である。

【診療科別専門医育成プログラム】

- ・専門医の取得を目的とする。
- ・多彩な症例を有し高度先進医療を行ない充実した指導医のいる大学病院と、豊富な症例を有し主体的な診療経験ができる一般病院の両者の利点を活かす。
- ・各領域間での交換プログラムを充実させ、多様な内容を可能とする。
- ・どの時期でも3～12ヶ月間大学内の他の領域にローテートが可能であり、他の診療科でより短期間の研修をしたり、他の診療科のカンファレンスや回診などに参加したりすることも出来る。
- ・医員の身分を持ったまま社会人枠を利用して大学院に入学し、専門医取得とともに学位を取得することも可能である。

【包括的臨床医育成プログラム】

- ・専攻しようとする診療科が未決定である場合、専攻診療科が決定するまでの間を支援する(期間は原則として1年となり、延長することも可能)。
- ・内科共通プログラム、外科共通プログラム及び内科・外科を組み合わせたプログラムにより構成されている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	160人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
坂口 一彦	総合内科	准教授	28年	
平田 健一	循環器内科	教授	33年	
西 慎一	腎臓内科	教授	34年	
西村 善博	呼吸器内科	特命教授	34年	
森信 暁雄	膠原病リウマチ内科	准教授	29年	
東 健	消化器内科	教授	36年	
小川 渉	糖尿病・内分泌内科	教授	33年	
戸田 達史	神経内科	教授	32年	
南 博信	腫瘍・血液内科	教授	31年	
南 博信	血液内科	教授	31年	
岩田 健太郎	感染症内科	教授	20年	
杉本 幸司	放射線科	特命教授	29年	
佐々木 良平	放射線腫瘍科	特命教授	24年	
飯島 一誠	小児科	教授	35年	
錦織 千佳子	皮膚科	教授	37年	

曾良 一郎	精神科神経科	教授	35年
木澤 義之	緩和支援治療科	特命教授	25年
掛地 吉弘	食道胃腸外科	教授	30年
掛地 吉弘	肝胆膵外科	教授	30年
谷野 裕一	乳腺内分泌外科	特命准教授	30年
大北 裕	心臓血管外科	教授	39年
眞庭 謙昌	呼吸器外科	教授	27年
尾藤 祐子	小児外科	特命准教授	22年
黒田 良祐	整形外科	教授	27年
甲村 英二	脳神経外科	教授	38年
中村 誠	眼科	教授	28年
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	31年
藤澤 正人	泌尿器科	教授	33年
山田 秀人	産科婦人科	教授	33年
寺師 浩人	形成外科	教授	31年
一瀬 晃洋	美容外科	特命准教授	24年
溝渕 知司	麻酔科	教授	32年
古森 孝英	歯科口腔外科	教授	38年
西山 隆	救命救急科	特命教授	29年
伊藤 智雄	病理診断科	教授	25年
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	21年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

○医療技術部セミナー

・主な内容：放射線部で担当する「医療用 3D プリンタを使つての臓器立体モデルのいろは」と歯科での「顎口腔外科手術における三次元立体模型」について講義を受け、臨床的な有効活用を学ぶ

・研修の期間・実施回数：平成29年2月 1.5時間 参加人数：120名

○放射線療法に関する研修会

・研修の主な内容：放射線療法に関する他職種連携の研修会（K-Grapeの会）

第一弾 治療計画・固定具ってなんだろう？

第二弾 多職種が行う病棟-外来連携を考えよう！

第三弾 緩和ケアと放射線治療を学ぼう！！

・研修の期間・実施回数：1時間30分 3回/年

・研修の参加人数：142名（院外にもオープン）

○臨床検査技術研修

・研修の主な内容：「臨床検査のピットフォール 血漿分画製剤投与患者での注意点」「プレゼンテーションのコツ」「臨床検査の過去と未来 ～企業人から見て～」「海外出張報告 ～アメリカ・ボストン～」 「質量分析の基本」「CBCの読み方・考え方 ～検査結果から一歩先へ～」 「関節リウマチ治療アップデート」「アメリカ微生物学会参加報告 ～最新の微生物検査の話題と米国の微生物検査事情～」 「平成28年度国公立大学病院医療技術関係職員研修参加報告」「日本DMATについて 災害医療派遣の報告」「認知症の診療と検査」「検査部での38年間を振り返って ～酒と泪と検査と研究～」

・研修の期間・実施回数：1時間 10回

・研修の参加人数： 50人

○検査部英語論文抄読会

・研修の主な内容：「LGR4 is a receptor for RANKL and negatively regulates osteoclast differentiation and bone resorption」など医学に関する英語論文抄読会

・研修の期間・実施回数：1時間 20回

・研修の参加人数 8名

○神戸栄養研究会

・主な内容：医師、コメディカルを対象に栄養・輸液および緩和ケア、リハビリ栄養関連の研究
会を実施し、理解を深める。

・期間・実施回数：2時間 1回/年 参加者：68名（院外もオープン）

○NEST 勉強会

・主な内容：医師、コメディカルが各々の専門の立場から NEST、栄養に関するテーマで勉強会を
行い、チーム医療の推進を図る。NST 専門療法士受験のために必要な実習時間として申請でき
る。

・期間・実施回数：1時間 6回/年 参加者：331名

○医療技術部セミナー

・主な内容：医療技術部職員の学習プログラムの一環として、「循環器疾患と食事療法」に関する
セミナーを実施。

・期間・実施回数：1.5時間 平成28年11月 参加者：113名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

○医療技術部初任者研修

・主な内容：新たに職場に採用された医療技術職員にたいして、病院で働くための基本的な知識
や技術を身につける。

・研修の期間・実施回数： 1時間 7回

○ME機器に関する研修

- ・研修の主な内容：輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器等のME機器使用方法に関する研修
- ・研修の期間・実施回数：2016年4月1日～3月31日 1時間程度 62回
- ・研修の参加人数：3506名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

○神戸臨床検査フォーラム

- ・研修の主な内容 「質量分析の原理と基礎」「当院における質量分析を用いた微生物検査の運用と薬剤耐性の検出」「MALDI-TOF MSを用いた薬剤耐性大腸菌パンデミッククローンのプロテオミクス解析」「脂肪の「質」：脂肪酸クオリティーと生体機能」
- ・研修の期間・実施回数 :3時間 1回
- ・研修の参加人数 90名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 藤澤 正人
管理担当者氏名	薬剤部長 西村 善博 総務課長 足立 裕 管理課長 佐藤 浩和 学務課長 永野 康彦 研究支援課長 佐良 俊久 医事課長 輪野 透 患者サービス課長 石坂 雅志

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	患者サービス課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療録センター
		看護記録	診療録センター
		検査所見記録	診療録センター
		エックス線写真	各診療科
		紹介状	診療録センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課
		高度の医療の研修の実績	学務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	患者サービス課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者サービス課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者サービス課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	患者サービス課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	患者サービス課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	患者サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	患者サービス課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	患者サービス課・薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	患者サービス課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	患者サービス課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	患者サービス課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	患者サービス課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	患者サービス課
		医療安全管理部門の設置状況	患者サービス課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	患者サービス課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	患者サービス課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	患者サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	患者サービス課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室・神戸海都法律事務所(外部窓口)
		職員研修の実施状況	患者サービス課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	患者サービス課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 藤澤 正人	
閲覧担当者氏名	薬剤部長 西村 善博 総務課長 足立 裕 管理課長 佐藤 浩和 学務課長 永野 康彦 研究支援課長 佐良 俊久 医事課長 輪野 透 患者サービス課長 石坂 雅志	
閲覧の求めに応じる場所	応接室	
閲覧の手続の概要	総務課に申出を行い、応接室にて閲覧する。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全の考え方2. 医療事故発生時の対応3. 医療事故発生時の関連機関連絡先4. 医療事故報告システム5. 医療安全に関する内規集	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院における医療安全管理対策の策定及び変更2. 医療安全のための研修及び教育計画の策定3. 重要インシデントに関する分析・改善策の検討・対応の決定について4. その他、医療安全に関する全般事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 15 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全に関する職員必修講習会 (年2回)2. 研修医、看護師、外部委託職員に対する採用時研修3. 医学部学生に対する医療安全管理に関する卒前教育4. 看護部対象講習5. 医療安全に関する講習会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療スタッフポケットマニュアルの配付2. 薬品情報検索システム3. 持参薬の病棟薬剤師による処方チェックシステム4. 是正処置実施計画書・報告書の作成5. 院内巡回の定期実施6. 医療の質・安全マネージャー連絡会議の定期実施7. 死亡事例の全件報告	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染対策に関する基本的考え方院内感染対策のための委員会・組織院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド抗菌薬適正指導の推進特定抗菌薬届出の監視コンサルテーション・職業感染対策・マニュアルの編集・院内環境の整備）、感染制御の地域連携	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策委員会 年12回（月1回実施） 感染制御部会 年13回（月1回実施） ※臨時開催1回含む
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容： MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド、医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会および感染制御部連絡会議開催、職業感染予防対策（結核曝露対策、ワクチン接種、血液・体液曝露予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修（必修講習会、ICP講習会など）の計画・実施。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義およびデモンストレーション。全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に、時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演。全職員のうち希望者に対して、院内感染対策におけるベーシックな知識を得てもらうように院内認定ICP育成講習会ベーシックを年4回開催。職種別（医師、看護師、診療技術部門、委託業者等）対象に、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について講義やトレーニング。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制のマニュアル化。その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">感染対策実施状況を確認するために、定期（週1回）およびオンタイムに院内ラウンドを実施し、必要時指導。抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用法を 検討し、随時介入指導。現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。職員、学生のワクチン接種プログラム（B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス）を計画・実施。新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底。改築、改修時の院内のファシリティーマネージメントの実施。医学科学生（BSL前）及び保健学科学生の実習前に、感染防止対策の講義と手指衛生や個人防護具の使用方法について演習を実施。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有) 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 17 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 全職員を対象とした講習会を6月から7月にかけて数回実施した。テーマは「平成28年度における薬剤関連のインシデントについて」である。習熟度確認のため、講習会終了後はマークシート方式による確認試験を実施した。</p> <p>(2) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例を共有する「安全管理のための連絡会」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(3) 例年通り、新人看護師を対象とした「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を実施した。また、病棟看護師を対象に麻薬の適正使用、ホスアプレピタント製剤による血管痛の対処法について短時間の講習を実施した。</p> <p>(4) 例年通り、新入局職員を対象としたオリエンテーションで医療安全を含めた医薬品に係る講習を担当した。講習内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法、薬剤関連の重大インシデント等である。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有) 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じ改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会と医療安全管理委員会で承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。管理状況に不備がある場合は管轄師長に連絡し改善依頼を行っているが、前年度は9階南病棟での残置薬の取り扱いについて改善を依頼した。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 2016年9月より、薬剤部の中央部門(調剤室、薬品管理室)が把握した未承認医薬品若しくは適応外又は禁忌等の処方内容は、薬剤部門システムの患者属性にコメント入力し定期的にその一覧を出力して医薬品安全管理者が確認している。また、病棟業務において病棟薬剤師が把握した内容については薬品情報室が「各病棟 疑義・相談ファイル」を加工し薬剤部門システムの患者属性データに追加している。この情報について、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は処方の必要性等の検討を行い、適宜、各部門・部署などに指導を行っている。また、その結果等は院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知に努めている。</p> <p>(2) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビやホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。さらに薬剤部職員には個別に周知し、その記録を保管している。</p> <p>(3) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、随時、医療の質・安全管理部、感染制御部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 12 回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、人工心肺装置、閉鎖式保育器、診療用放射線照射装置についての操作方法及び管理上の注意点とトラブルシューティングについて	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 院内の臨床工学技士による定期点検（定期消耗品交換含む）と、製造販売メーカー実施における点検報告書の管理	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関する安全情報の提供と不具合報告の連絡体制の強化 医療情報端末（電子カルテ）を用いての安全情報の共有	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長 (医療安全担当：医療の質・安全管理部長) を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医療の質・安全管理部と連携し、月 1 回発行する広報誌「くすのきスクエア」により周知徹底を図っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂を行った。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>(1) 誰が説明し、誰が立ち会うか</p> <p>(2) どこで行うか。</p> <p>(3) 記録と保管</p> <p>(4) 説明と患者側の同意の記録</p> <p>(5) 説明の内容</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>(1) 診療録等の記載内容の確認</p> <p>(2) 記載方法や内容の研修</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（1）名</p> <p>うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（ ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>(1) 委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存，その他委員会の庶務に関すること</p> <p>(2) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに，必要な指導を行うこと</p> <p>(3) 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること</p> <p>(4) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに，必要な指導を行うこと</p> <p>(5) 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに，必要な指導を行うこと</p> <p>(6) 医療安全管理対策に関する教育，研修の実施に関すること</p> <p>(7) 患者の医療相談に関すること</p> <p>(8) 医療安全に係る連絡調整に関すること</p> <p>(9) 医療の質の評価に関すること</p> <p>(10) その他医療の安全対策の推進に関すること</p> <p>モニタリングの具体例</p> <p>院内全死亡例、予期せぬ急変事例、DVTの発症、手術・麻酔に関連した予期せぬ出来事 等</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、高難度新規医療技術の責任者として業務を掌理する
 - (2) 高難度新規医療技術の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
 - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、未承認新規医薬品等を用いた医療の責任者として業務を掌理する
 - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
 - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・監査委員会の開催状況： 回
- ・活動の主な内容：
 - ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
 - ・委員名簿の公表の有無（有・無）
 - ・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・公表の方法：ホームページ

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小縣 正明	神戸市立医療センター西市民病院 副院長/救急総合診療部長/医療の質・安全管理部長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・無	
丸山 英二	慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科 特任教授(非常勤)		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・無	
武田 高	関西住宅品質保証株式会社 監査役(非常勤)		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 256件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 65件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) インシデント、アクシデント等の報告（全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告
 - (2) (1)の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ） 無 ）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ） 無 ）
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
総合案内受付に相談窓口を設置し、担当者（メディエーター）を配置している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 無 ）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 無 ）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 無 ）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
6月及び1月に2回実施。
(6月)
 - (1) 「医療安全に関する特定機能病院の見直しについて」
 - (2) 「針刺し・切創／皮膚・粘膜曝露防止」
 - (3) 「平成27年度における薬剤関連のインシデントについて」
 - (4) 「重症度、医療・看護必要度について」

(1月)

- (1) 「最近の重大インシデント事例について」
- (2) 「インフルエンザウイルスおよびノロウイルスの感染対策」
- (3) 「モニター・除細動器の取扱について」
- (4) 「医療の継続(良好な患者との関係構築)に必要な未収金の基礎知識について」

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

厚生労働省で検討中であったため、今後内容が確定された時点で研修を実施予定である。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：平成27年12月（認定期間 平成27年3月28日～平成32年3月27日）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法：病院ホームページに掲載 内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器外科等)、腫瘍センター(腫瘍・血液内科、緩和支援治療科等)、ICUにて複数の診療科が連携し対応。	

